

憂いを呼ぶ「備え」



I LOVE いしがき HP



I LOVE いしがき FB

2019年3月17日 I Love いしがき FB ページに投稿

産経新聞 web 版の 2019 年 3 月 17 日記事のコピーです。

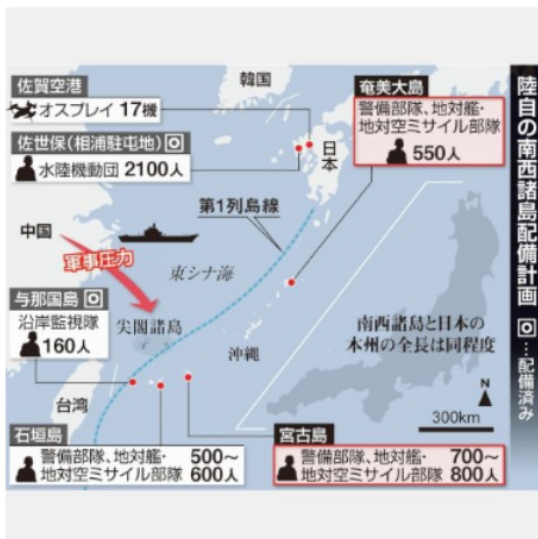
オリジナルは

<https://www.sankei.com/politics/news/190317/pl1903170009-n1.html>

にあります。

奄美、宮古…南西地域で陸自駐屯地が続々と拡充、中国脅威に対抗

2019.3.17 21:09 | 政治 | 政策



陸上自衛隊は26日、鹿児島県・奄美大島と沖縄県・宮古島に新たな駐屯地を開設する。中国による離島侵攻の脅威を見据え、抑止力と対処力を高める。沖縄県の石垣島でも駐屯地の拡充計画を進めており、完成すれば「戦力の空白地帯」とされてきた南西地域で当面の防衛態勢が整うことになる。

「南西地域は非常に厳しい情勢にある」。山崎幸二陸上幕僚長は14日の会見で、中国の脅威を念頭にこう述べた。陸自幹部も「日本で最も有事が起きる可能性が高いのが南西地域だ。空白状態を早く解消しなければ」と訴える。

南西諸島は鹿児島県の大隅諸島から沖縄県の与那国島まで全長は約1200キロに達する。日本の本州とほぼ同程度の広大な海空域を有するものの、陸自はこれまで主戦力を配備していなかった。

その間隙を突くように軍事活動を活発化させているのが中国だ。艦艇や航空機の常続的な活動に加え、昨年1月には中国潜水艦が宮古島の接続水域を潜航したことが初めて確認された。空母「遼寧」の

西太平洋への進出も始まっている。

奄美大島では、奄美駐屯地（奄美市）と瀬戸内分屯地（瀬戸内町）を新設し、計約550人を配備する。奄美駐屯地に初動対応を担う警備部隊と、航空機や巡航ミサイルを迎撃する地对空ミサイル部隊が駐留する。瀬戸内分屯地には警備部隊と、艦艇に備えた地对艦ミサイルなどを配備する。

宮古島では、宮古島駐屯地（宮古島市）を構え、警備部隊約380人を配置。来年以降に地对空・地对艦ミサイル部隊も配備し、最終的に計700～800人規模となる方向だ。

さらに、今月から石垣島でも駐屯地配備に向けた造成工事に着手した。完成すれば南西地域での陸自の部隊配備計画は完結する。

陸自は昨年3月、離島奪還の専門部隊「水陸機動団」を相浦駐屯地（長崎県佐世保市）で発足させた。同時に、有事に即応展開する機動旅・師団の改編も急いでいる。安全保障上の最大の脅威がロシアから中国へと移ったことを受け、北方重視だった陸上戦力を南西有事への対応が可能な態勢へとシフトする必要に迫られているからだ。

陸自幹部は「部隊配備、即応展開、奪還の3機能がそろうことで、南西地域の守りは盤石になる」と語っている。

実に、あからさまに書いてくれました。

「南西地域は非常に厳しい情勢にある」（山崎幸二陸上幕僚長）。

「日本で最も有事が起きる可能性が高いのが南西地域だ」（陸自幹部）。

地図には尖閣諸島が、文中では宮古海峡が、「厳しい」場所として強調されています。

そんなところにある、5万の人が住み多くの観光客が訪れる小さな島に、有事に相手の軍艦を撃つためのミサイルを配備すると言うのです。ある日有事になって、そのミサイルが発射態勢に入れば、必ず相手の弾道ミサイルが飛んで来ます。「日本の備え」としてもはなはだ疑問ですが、「島の備え」にならないことだけは、火を見るよりも明らかです。

陸自幹部は「部隊配備、即応展開、奪還の3機能がそろうことで、南西地域の守りは盤石になる」と語ったとか。やっぱり、島がミサイル攻撃されるばかりか、一旦占領され、奪還することが、「守り」だと考えているのです。

この南西地域で、「危ない」のは、中国だけではありません。

「南シナ海有事」や「台湾有事」に、日本の自衛隊に海峡を封鎖させ、中国海軍を「第1列島線」内側の東シナ海に閉じ込めようというアメリカも、

そのアメリカの思惑に飛びついて、国産ミサイルを開発・増強し、部隊配備して、「一戦覚悟」で日本を再び「戦争する国」に仕上げたい安倍内閣も、同じように「危ない」軍拡・戦争準備を進めています。もちろん、それぞれの国の軍需産業は、大喜びですが。

島に住む私たちが、そんな危険な「戦争ゲーム」の犠牲にされるのはごめんです。

非武装の島を保ち、外交と交流で紛争を解決する本当の安全保障を進めることこそ必要です。